

社団法人 協力隊を育てる会 御中

## 小さなハートプロジェクト申請書

「小さなハートプロジェクト」を下記のとおり、申請します。

平成 22 年度 1 次隊 職種 エイズ対策 氏名 加藤 由美

- プロジェクト名 1 日 3 食の食事を！学校から地域へ広げる貧困家庭生徒の栄養改善プロジェクト
- プロジェクト実施地域について

対 象 国	ケニア共和国
実施場所（地図を添付）	ニャンザ州ニャンド県アヘロ

- プロジェクトの概要（広報用にプロジェクトの内容を 250 文字程度にまとめてください。）

生徒数約 600 名を抱えるオカンジャ小学校の約 3 分の 1 の生徒は、孤児か片親を亡くしている。彼らの多くは HIV で親を亡くしており、学費・服が買えないばかりか、毎日 3 食の食事のままならない生活を送っている。当プロジェクトでは学校に農園と家畜飼育場を建設し、農業のノウハウ・家畜飼育の方法を学ぶ。収穫した作物、家畜を売った収入等で学校給食を開始する。また農園と家畜飼育を担当する生徒の主なメンバーは、貧困生活を送っている孤児・または片親を亡くした子供たちから成る。ゆくゆくは彼らが学んだ知識・技術を自宅で実践でき、学校から地域へ広がる栄養改善への取り組みのきっかけになることを目標としている。

- プロジェクトの実施計画（準備や実施の予定期間などを記入してください。）

期 間	計 画 内 容	主たる担当
プロジェクト採択後より 1 週間	鶏・羊/山羊・野菜を担当するグループを貧困家庭の生徒たちから各 20 名選び、各グループにリーダー、会計係を選出し担当教師も加わる。	生徒、教師、ボランティア
2 日	学校運営委員会の役員との会議を開き、当プロジェクトの共通理解を図る。	ボランティア、運営委員会、校長、地域住民
1 週間	運営委員会・両親を招集し会議の場を設け、作業に加わってもらう人数・資材・家畜などの提供者を募る。また、畑・家畜飼育のフォローアップをってもらう人数・役割を把握し、学校・運営委員会より承認してもらう。	運営委員会、校長、ボランティア、地域住民

5日間	<p>農業省からよんだ講師より講義を受ける。</p> <p>鶏、山羊/羊、野菜の各20名のグループに分かれ、担当教師も加わり1トレーニング2,3時間の講義を受ける。</p> <p>その後生徒の中で役割分担を決める。</p>	生徒、農業省、教師
2週間	<p>学校敷地内の畑と住民から借りた畑に種まきを開始する。</p> <p>(合計約2エーカー)</p> <p>植える野菜:メイズ、豆、トマト、ケール、伝統野菜4・5種類。これら全ての野菜はだいたい4ヶ月あれば全て育ち収穫できるため、1年で3回収穫が可能になる。</p> <p>同時に農場の柵作りも開始する。</p>	生徒、地域住民、ボランティア
3週間	<p>地域の木工・生徒と共に飼育小屋設置に取りかかる。完成後、山羊/羊、各10頭、雄3:雌7、ミディアムサイズと既に大人の物を混ぜて購入予定。(2000ksh≒1760円/頭)、鶏50羽ミディアムサイズ(200ksh≒176円/羽)を購入。(1円≒0.88ksh)</p>	生徒、地域住民
種まき、家畜購入後より4ヶ月間	<p>担当グループが中心となり、他の生徒も巻き込みながら野菜・家畜飼育を行っていく。主に朝と授業終了後の夕方に世話をする。週に2,3度は地域の農家に来てもらいアドバイスをもらう。</p> <p>&lt;家畜のエサ代に関して&gt;</p> <p>鶏は米ぬか、野菜、小魚等を与える。放し飼いにして虫・ミミズなども食べさせる。米ぬかは90kg(1bag)=400ksh~800kshで購入できる。(これで約1ヶ月半50羽分)米がとれた時期と収穫前とでは倍値段が違う為、安い時に買い貯める。野菜はケールの茎が無料で毎日マーケットで手に入り、魚コーナーに行くと内臓が捨ててあるのでこれも与える。</p> <p>山羊・羊は基本学校の芝・草を食べてもらうのと、ケールの茎も与える。その為エサ代については基本米ぬか分を支出として計算する。ワクチンは鶏1羽10ksh程度で、頻度は半年に1回程度。</p> <p>山羊・羊は定期的に打たず、状態・病状をみてdisease controlをしていく。</p>	生徒、地域住民、教師、ボランティア
2,3ヶ月後	<p>育てた鶏の約半数の25羽を450kshで売る。(元金200ksh)</p> <p>その頃には数羽のヒナが育っていると期待して、再び200kshで15羽ほど購入する。</p>	生徒、地域住民、教師
4ヶ月後	<p>育てた野菜の収穫に入る。</p> <p>仮に全部売った場合の収入額は、メイズ64,800ksh(1エーカー)、トマト10,000ksh、豆24,300ksh、伝統野菜13,000ksh</p>	生徒、地域住民、ボランティア

	合計 112,100ksh 第二サイクル始めるのに、種代：メイズ 1,500ksh、トマト 700ksh、豆 750ksh、伝統野菜 450ksh 肥料代 6,200ksh、農薬第 6,000ksh 合計 15,600ksh 1 サイクルの収入：計 96,500ksh 実際全部売るわけではないので、この金額以下の収入になる。 収穫後、再び次期の野菜の種植えに入る。	
7ヶ月後	山羊・羊：元金 2000ksh/3000~3500ksh 3, 4ヶ月で大人になり、妊娠期間は約5ヶ月間。(雄3頭・雌7頭) 出産に至るまで半年ちょっとかかるとし、その後5頭ほど生まれると予想(双子の場合もある)。産まれた数だけ売ると、5000ksh~7500kshのプラスバランス。	生徒、地域住民、教師

5. 隊員活動のようすも含め、当プロジェクトを立案・計画した背景と動機について紹介してください。(プロジェクトの現場や状況のわかる写真・地図・設計書を添付してください。) ※添付資料1

今回の申請に至った経緯は、村での栄養調査をしたのがきっかけであった。というのも病院で HIV 陽性妊婦に栄養指導を行うと必ず、「バランスの良い食事って言うけど、食べ物自体買えないのよ。」という返答が返ってきた為である。一体どういった生活状況・食生活を送っているのか、約 40 件近くの家庭を回って調査した。見えてきたのは、栄養失調・片親または両親を亡くした子供の多さ、1日1食の食事、乾燥して干上がった田畑など、貧困生活を送っている家庭の多さであった。貧困家庭の多い大きな理由の一つに、ここニヤンド県での HIV の感染率の高さがあげられる。ケニア全体の HIV 感染率 7.4%に対し、ニヤンド県では約 23%という 3 倍以上の高感染率である。自身が HIV というだけでなく、HIV によって親・子供・兄弟を亡くしたなど、何らかの形で HIV の影響を受けているのである。こうしてみると、HIV は最も弱い立場にある人達から順に多大な影響を及ぼしていると実感する。また多くの高校が給食を提供しているのに対し、ほとんどの小学校では生徒は自宅に戻って昼食をとる。しかし中には何も食べず空腹のまま学校に戻る生徒も少なくない。授業に集中できず、また午後から学校に来ないという選択をする生徒もいる。当プロジェクト開始予定のオカンジャ小学校では約 60 人が孤児、111 人が片親を亡くした子供たちである。とりわけ孤児に関しては彼らが唯一の働き手であり、食事を作るのも彼らであったりする。約 1 時間の昼休憩が設けられるが、往復徒歩約 30 分の道のりを差し引くと、そこから薪をおこし 30 分で食事の支度をして昼食を済ますのはかなり困難である。また彼らの中には畑もあり、育てている作物もあるが未熟な知識・管理の為、ほとんどが干あがり収穫を待たず枯れてしまっていた。

こうした背景により、今回の「学校から地域へ 一貧困家庭の栄養改善プロジェクト」申請に至った。とりわけ貧困家庭の生徒たちを対象に、学びの場である学校で作物・家畜飼育のノウハウを学びそれらを自宅で実践する。同時に育てた作物で貧困家庭の児童に対して給食を開始する事で、午後から学校を休む生徒の数を減らす事も今回の大きな目的の一つである。学校を通して教師・地域を巻き込み、学校から地域に広がる栄養改善につなげる事を目標とする。

6. 当プロジェクトが実施された場合、どのような改善、発展が期待されますか。

ケニアでは70%を超える国民が農業に携わっているにもかかわらず、小学校では農業の授業は行われず、高校レベルでも数人の農業を専攻した生徒が学ぶのみである。当プロジェクトにより、生徒は農業を学ぶ機会と知識・技術を習得し、興味をもつきっかけを作る機会にもなる。またそれらの技術を自宅で実践する事で、経験を積む事もできる。こうした機会を与えることは、農業の活性化・将来的な食糧生産の増加に繋がっていくことが期待できる。

また今回のプロジェクトを開始するにあたって、地域の両親から成る運営委員会との話し合いの場を設け、地域ぐるみで生徒の栄養改善に取り組む意識付けを行う。農園や飼育場の柵やキッチン建設の労働力は全て生徒の両親たちが行い、幾つかの鶏、山羊、羊、野菜の種なども地域から寄贈されることになっている。地域が栄養改善に向けて一つになり、その必要性を認識しチームとなってこのプロジェクトを支えていく。またこのチームには教師、農業省も一緒に加わっていく。野菜栽培・鶏・山羊・羊飼育をする生徒をグループ化し、各グループに教師も一人ひとり加わる。野菜栽培、家畜飼育の技術支援に関しては、農業省が専門知識・技術を教えることになる。また育てた作物の調理の仕方、効果的な栄養摂取の方法、乾期に備えての乾燥野菜の作り方など教える授業の枠も設け学ぶ機会を与える。学校から地域へ広がる栄養改善へと繋げ、ゆくゆくは地域住民全体の栄養改善に対する意識改革を期待する。

また今回のプロジェクトによって、貧困家庭の児童に対してゆくゆくは学校給食を開始する事も大きな目標の一つである。”What you are is what you eat”（何を食べるかが自分自身をつくる）まさに毎日の食事が、自分自身を構成しているのである。また全ての活動の幹は食にあるのであると言え、食事をとらない事で授業に集中できず、出席率も下がることでますます授業に後れをとる。しかし学校給食により、親は積極的に学校に通わせようとしそれにより出席率・就学率の向上にもつながる。教育は未来の人材育成にもつながり子供の未来を支えていく重要な役割を果たすのである。また十分な栄養を摂取できない事は、免疫力・基礎体力の低下にもつながり簡単に病気に罹りやすくなるだけでなく、回復の遅れにもつながる。時に栄養不足は知能発達を遅らせる危険性もある。その為、彼らの食を満たすことは彼らの健全な発育を助ける事ともいえる。よって当プロジェクトにより農業に携わりノウハウを学ぶ機会を設ける事、地域を巻き込む事でゆくゆくは地域全体の栄養改善に対する意識向上、そして何よりも生徒たちの健全な発育を助け教育が平等に受けられる機会が得られると期待する。

7. プロジェクトを実施する国や地域、対象者の人々の暮らしを紹介してください。また、プロジェクトに対しどのように参加しますか。（簡単な地図や写真など別添してください）※添付資料 2.3

ケニアは東アフリカに位置する人口 3,861 万人の国である。1963 年にイギリスから独立を果たし、その後「アフリカの優等生」と呼ばれるほど高水準での経済成長を記録してきた。今では東アフリカで最も発展した国と認められているが、人口成長率は 1~2%を推移しており、発展途上国の中ではそれほど高くない。「ハクナマタタ精神」(どんな事でも問題ないさ!)という言葉が有名なように、国民はとても陽気で明るく実にフレンドリーである。またケニアの国

民は43の部族から構成され、中でもキクユ、ルイヤ、ルオ、カレンジンの4つの民族が人口の91%を占めており、政治経済にも大きな影響を与えている。

当プロジェクトを実施予定のニヤンド県は、琵琶湖の100倍の面積を誇るビクトリア湖から車で約30分東に走った所に位置する。ここはルオ族が住み、オバマ大統領の祖母もこのルオ族出身である。主な産物は米・サトウキビ・魚・さつまいも・バナナなどが挙げられる。雨が降ると土壌はぬかるみ、米の栽培に適しているが雨季にはニヤンド川が氾濫したびたび洪水の被害も受ける。また上記にも記したように、ニヤンド県ではHIVの感染率が約23%と非常に高い。その主な理由に、ルオ族ならではの妻相続制度の存在(HIVなどで夫を亡くした妻は夫の兄弟と結婚をする)、漁師にたちを目当てにした売春(魚の代金の代わりに売春を行う)、サトウキビ工場への労働人口の流入(出稼ぎで短期間滞在し、その間複数の女性と性交渉をもつ)、などが挙げられる。日本でのHIV感染率が0.1%以下にも満たない事を考えると、その人口の多さが伺える。特に貧困層の住民はこのHIVの影響を大きく受けている。こういった住民の多くは病院へのアクセスが困難な遠隔地域に住んでいたり、また十分な食事がとれずに食後に飲む抗HIV薬を中断してしまったりと感染後の適切な治療・ケアが受けられていないケースが多い。それによりHIVで亡くなる人も増え、多くの場合幼い子供を残したまま亡くなってしまふ。こうした家庭に生まれた子供は、更に貧しい生活を強いられることになる。収入の為に早くから学業を中止し労働に従事するようになり、十分な教育を得る機会も失われているのが現状である。こうした背景により、当プロジェクトでは地域住民を巻き込んでの栄養改善に取り組む。まずは運営委員会と共に重要性を認識・計画を作成し、その後両親を集めて共通理解を図る。農園・飼育場の小屋を生徒と親たちが一緒に作成する事で、当プロジェクトに一体となって取り組む認識が深まる。彼らからも約2エーカー程の土地を借りられることになっており、週末生徒と地域住民が一緒になって農場を耕す計画である。また生徒たちが習得した知識を自宅で実践する際も、近隣住民は彼らをサポートし学校の教師もフォローアップを行っていく予定である。こうした取り組みにより、学校・地域が一体となった栄養改善に取り組む事を目標とする。

8. 予算 (1円=0.88kshで換算)

	項目	金額 (現地通貨)	金額 (日本円)
1	山羊・羊小屋建設 (詳細1のA~E)	45,000ksh	¥39,600
2	山羊・羊購入、薬代 (詳細2のF・G)	43,000Ksh	¥37,840
3	鶏小屋建設	25,000ksh	¥22,000
4	鶏購入、ワクチン、エサ (詳細3のH~J)	16,000ksh	¥14,080
5	農場柵建設 (詳細4のK~O)	30,000ksh	¥26,400
6	肥料・農薬・種 (詳細5のP~R)	26,000ksh	¥22,880
7	農具	4,000ksh	¥3,520
8	トラクター借用	6,000ksh	¥5,280
9	運賃	3,000ksh	¥2,640
10	トレーニング	15,000ksh	¥13,200
11	灌漑設備購入費 (ポータブルタイプ)	80,000ksh	¥70,400
12	キッチン建設 (詳細6のS~W)	81,250ksh	¥71,500
13	キッチン用具	13,800ksh	¥12,144
14	通信連絡費	10,000ksh	¥8,800
15	支援申請額	398,050ksh	¥350,284

他への助成金等申請	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない
	ある場合→ <input type="checkbox"/> 草の根 (小規模) <input type="checkbox"/> 無償資金協力 (在外公館) <input type="checkbox"/> その他 ( )
ある場合、当該プロジェクトとどのように関連していますか。	

**連絡先** : 社団法人 協力隊を育てる会 小さなハートプロジェクト担当  
 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 JICA 地球ひろば3階  
 TEL : 03-6303-2055 FAX : 03-3400-7432 E-mail:shien@sojocv.or.jp

## 見積書詳細 1

項目	品名	数量	単価	小計 (ksh)
A	木材 a	155	90	13,950
B	木材 b	20	300	6,000
C	アルミシート 2.5m	20	850	17,000
D	アルミシート 3m	7	950	6,650
E	釘	5kg	200	1,000

## 見積書詳細 2

項目	品名	数量	単価	小計 (ksh)
F	山羊/羊	20	2,000	40,000
G	薬代	N/A	3,000	3,000

## 見積書詳細 3

項目	品名	数量	単価	小計 (ksh)
H	鶏	50	200	10,000
I	ワクチン	N/A	3,000	3,000
J	エサ	N/A	3,000	3,000

## 見積書詳細 4

項目	品名	数量	単価	小計 (ksh)
K	支柱	50	300	15,000
L	小石	4 袋	1,250	5,000
M	砂	3 袋	1,050	3,150
N	セメント	5 袋	900	4,500
O	釘	8kg	200	1,600

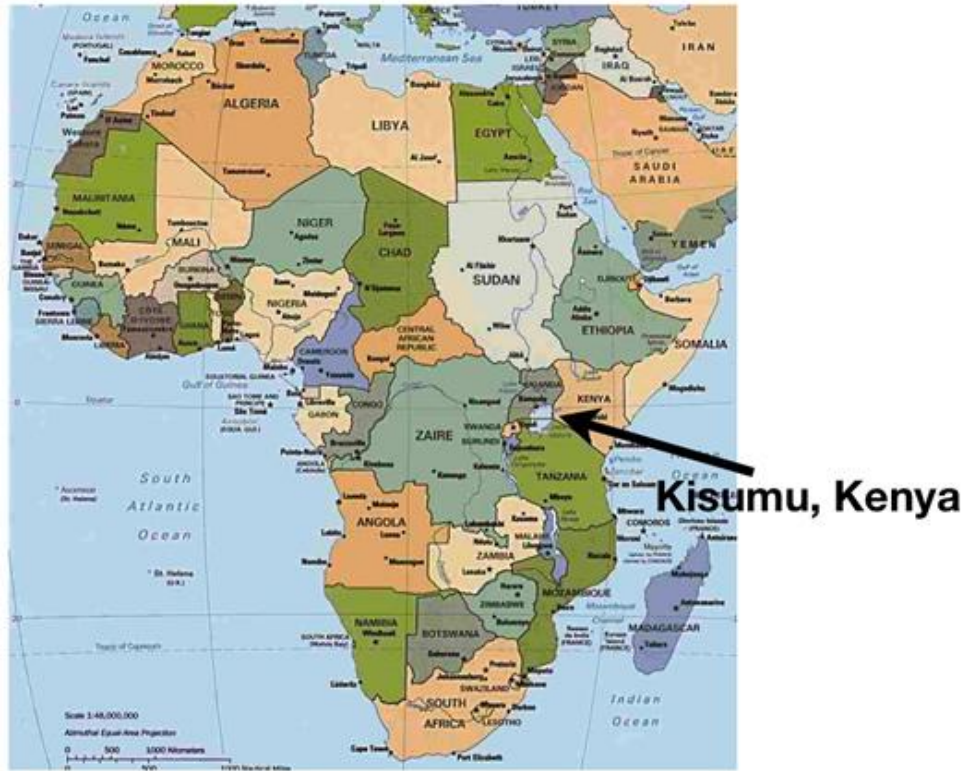
## 見積書詳細 5

項目	品名	数量	単価	小計 (ksh)
P	肥料	N/A	8,000	8,000
Q	農薬	N/A	10,000	10,000
R	種	N/A	8,000	8,000

## 見積詳細 6

項目	品名	数量	単価	小計 (ksh)
S	アルミシート 2.5m	25 枚	850	21,250
T	アルミシート 3m	10 枚	950	9,500
U	釘	15kg	200	3,000
V	支柱	30 袋	300	9,000
W	木材	N/A	N/A	38,500

キスムという第4の都市から車で30分の所に任地がある。



ニャンザ州の地図（任地はニヤンド県）

